

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

由利本荘市・にかほ市プロジェクト「鳥海山を核とした広域観光振興プロジェクト」 における事後評価調書

1 プロジェクトの目的

鳥海エリアの観光振興を図るため、アクセス拠点の集客力の向上や情報提供機能の強化等を図るとともに、新しいバス周遊コースを活用しながら、観光客の流れに対応したルートづくりを行うほか、エリアとしての統一的な情報発信、スポーツや文化を活用した様々な体験型メニューの開発などに取り組むことにより、観光客の視点からの一体的な観光エリアの構築と“鳥海エリアで楽しんだ”という充足感を観光客が体感できる観光地づくりを進める。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	由利本荘市・ 事業費 (千円) A	にかほ市 交付金 (千円) B	県事業・協働 事業費 (千円) B	総事業費 (千円) A + B
平成 26 年 1 月 20 日	H26～H28	804, 429 (870, 672)	400, 000	31, 520 (31, 520)	835, 949 (902, 192)

※（ ）内は計画値

【プロジェクトを構成する事業】

○由利本荘市事業群

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	備考
鳥海山観光案内拠点整備事業（花立クリーンハイツ）	91, 573	87, 950	H26～H28
鳥海山案内人育成事業	365	200	H26～H28
桑ノ木台森の休憩所整備事業	31, 276	29, 300	H28 (H27 繰)
桑ノ木台湿原シャトルバス運行事業	15, 300	14, 000	H26～H28
市道「祓川堰口線」、「祓川線」改良	39, 780	0	H26～H28
鳥海山麓周遊バス運行事業	8, 738	6, 500	H26～H28
周遊用マイクロバス購入並びに点検格納庫建築事業	63, 159	62, 050	H27
計	250, 191	200, 000	

○にかほ市事業群

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	備考
観光拠点センター建設事業(道の駅象潟「ねむの丘」)	520,259	200,000	H26～H27
観光拠点センター案内業務の整備・強化事業	32,100	0	H26～H28
二次交通整備事業	1,879	0	H26～H28
計	554,238	200,000	

○県事業群

事業名	総事業費 (千円)	備考
食農観ビジネス等推進重点支援地域形成事業	8,000	H26
秋田・山形県際間連携推進協議会事業	6,960	H26～H28
計	14,960	

○協働事業群

事業名	総事業費 (千円)	備考
由利地域観光推進機構実施事業	6,000	H26～H28
鳥海国定公園観光開発協議会事業	10,560	H26～H28
計	16,560	

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

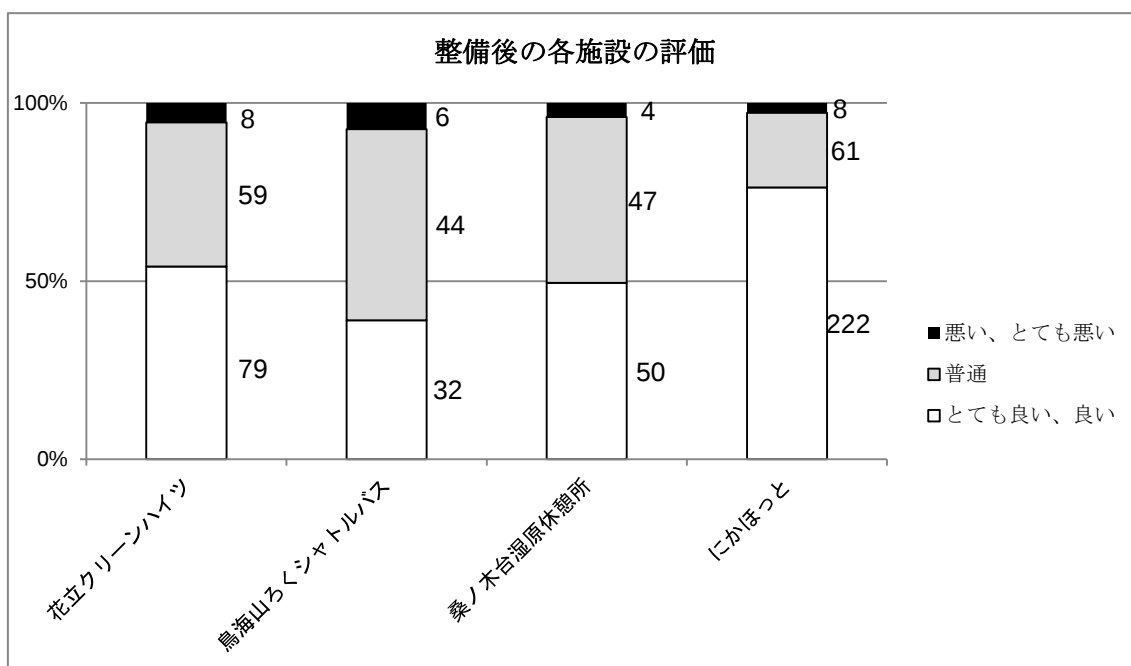
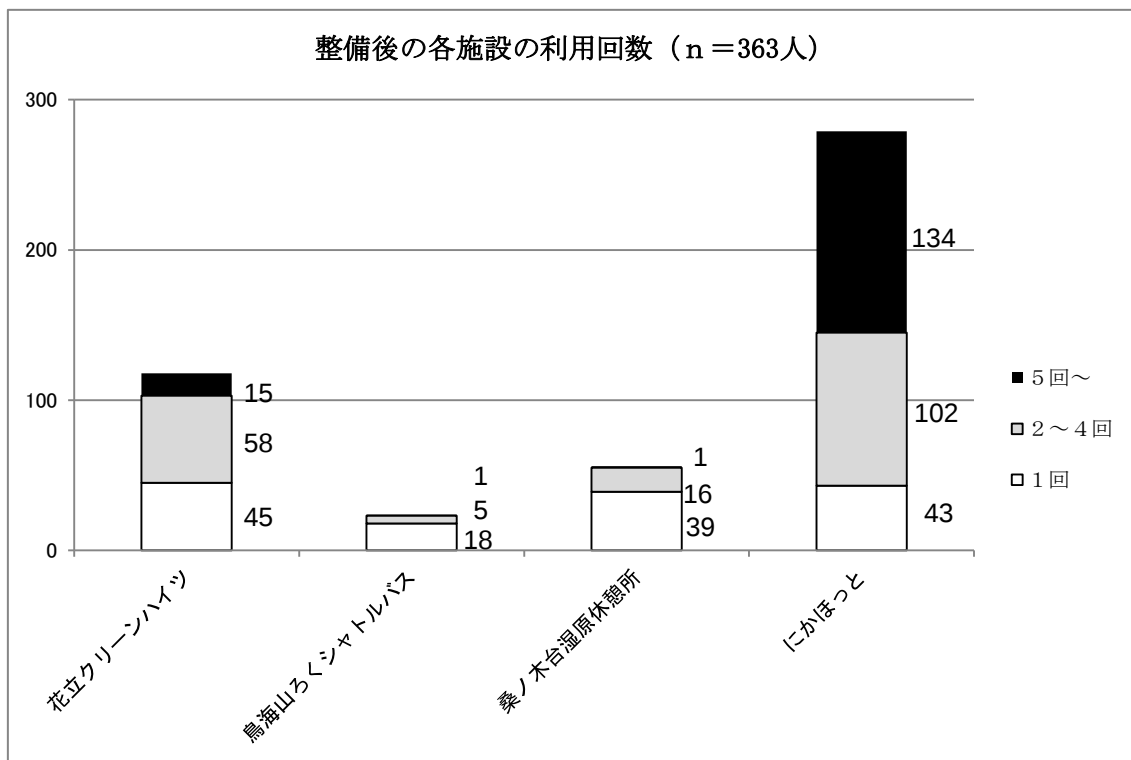
指標名	基準値 (H24 年)	目標値 (H28 年)	実績値 (H28 年)	達成率	備考
由利本荘市・にかほ市観光入込客数	3,812 千人	5,250 千人	4,114 千人	78%	
由利本荘市・にかほ市延べ宿泊者数	147,077 人	196,000 人	148,248 人	76%	
道の駅象潟「ねむの丘」入込客数	547,555 人	700,000 人	513,003 人	73%	
シャトルバス、周遊バスの利用客数	2,786 人	7,000 人	1,621 人	23%	基準は、 H25 年度

(参考)「にかほっと」(H28 年 4 月 9 日オープン) の H28 年観光入込客数 675,570 人

由利高原鉄道自社企画の鳥海山麓へのツアーを加えた H28 バス利用客数 2,209 人

4 住民アンケート調査の結果

由利本荘市とにかほ市の住民アンケート調査によると、整備後の各施設の利用回数及び評価は、いずれも「にかほっと」、「花立クリーンハイツ」、「鳥海山ろくシャトルバス」、「桑ノ木台湿原休憩所」の順となっている。



【調査概要】

調査期日：由利本荘市：平成 29 年 9 月 25 日～10 月 20 日

にかほ市：平成 29 年 9 月 18 日～9 月 29 日

調査方法：由利本荘市全地区及びにかほ市全地区を対象とするアンケート調査
(18 歳以上の市民から無作為抽出)

調査人数：由利本荘市 163 人、にかほ市 200 人

5 経済波及効果分析等

由利本荘市・にかほ市「鳥海山を核とした広域観光振興プロジェクト」における経済波及効果は、①ハード事業費支出による効果（10 億 5,800 万円）、②ソフト事業費支出による効果（5,800 万円）、③来場者の消費支出による効果（38 億 1,500 万円）を合わせると、合計 49 億 3,100 万円であったと推計される。

(単位：百万円)

	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	計
ハード事業費支出による経済波及効果	684	217	156	1,058
ソフト事業費支出による経済波及効果	39	11	8	58
来場者の消費支出による経済波及効果	2,356	991	468	3,815
合計	3,080	1,219	632	4,931

6 その他参考となる事項

【成果指標外の成果】

○由利本荘・にかほの道の駅（6 箇所）の観光入込客数の増加

本プロジェクトの県及び協働事業において、由利本荘・にかほの道の駅等を起点とした鳥海エリアの周遊性を高めるスタンプラリーや食イベントを実施したことにより、県内外から観光客が増加している。

	H25 年	H26 年	H27 年	H28 年
道の駅（6 箇所）の 観光入込客数(千人)	1,396 千人	1,400 千人	1,457 千人	1,474 千人

7 民間アドバイザーの意見

(民間アドバイザー：公益財団法人日本交通公社 観光地域研究部次長 吉澤 清良氏)

(1) “眺めて、住んで、旅して良し”、上質な日常を愉しむ

鳥海山は日本海に裾野を浸した秀麗な山容を持ち、その姿は“出羽富士”とも呼ばれ親しまれている。この類い希な美しい風景と、その気候・風土に根ざした産業、人々の営みこそが、由利本荘市とにかほ市からなるエリア（以下、由利本荘・にかほエリア）を代表する資源である。

この鳥海山の山麓に広がる由利本荘・にかほエリアは、“眺めて、住んで、旅して良し”、この環境を如何に保全・創出し活用していけるかが大きなポイントになる。

(2) 「ゆりてつツアー」の認知度向上

本プロジェクトで購入したバスを活用した由利高原鉄道による「ゆりてつツアー」について、由利本荘・にかほエリア外からの誘客という点では、秋田市内発着のツアーの認知度を高めて、ツアー参加者を増やしていくことが大切である。そのための取組を検討したい。

秋田市への旅行者（宿泊者）の由利本荘・にかほエリアへの誘客を想定する場合には、県外に向けた情報発信力を持つJRや航空会社、旅行会社等への営業活動が大切となる。また、現状3日～5日前までの申込〆切を前日までとすることが可能なら、秋田市内の主要な宿泊施設に営業を行い、客室等へのチラシの配架を依頼するのも効果的である。

(3) 鳥海山の歴史・文化的な観光素材（神社仏閣等）に着目した情報発信

鳥海山のように風光明媚な自然資源の場合には、見た目の美しさをアピールすることが多いが、鳥海国定公園観光開発協議会発行のパンフレット「出羽富士鳥海山行脚」は、神社や“祈りの道”を取り上げて、鳥海山を紹介している。国民の学習・創造的活動への関心の高まりなどもあり、このような歴史・文化的資源は注目すべき素材である。しかし、一般的に歴史・文化的資源は当該資源に関する知識等の有無が感動の度合いを大きく左右する傾向にあるため、消費者への分かり易く丁寧な説明（パンフレット・マップ、観光案内サイン、案内人（ガイド）等）が必要となる。

(4) 「桑ノ木台湿原」のターゲットを見据えたプロモーションの実施

「森の休憩所」は、観光客が回遊先のひとつとして“ちょっと立ち寄る”施設ではなく、トレッキングやハイキング、写真撮影やスケッチなどといった目的で、桑ノ木台湿原に訪れる際に利用する施設である。現在、桑ノ木台湿原自体の存在が県内でもあまり知られていないことを考えると、当面はターゲットを見据えたプロモーションの展開により、利用者の増加、認知度の向上を狙っていくことが先決である。

(5) メインーサブの情報拠点の連携

自動車利用者にとって、由利本荘・にかほエリアでは、「道の駅」や、にかほ市観光拠点センター「にかほっと」（以下、にかほっと）がメインの情報拠点であり、「花立クリーンハイツ」はサブ拠点として位置づけられる。メインーサブの情報拠点が相互に連携を図りながら、由利本荘・にかほエリアの情報を発信していくことが大切である。

(6) 「にかほっと」の観光情報拠点としての更なる充実

「にかほっと」は、隣接する道の駅象潟「ねむの丘」とも機能・役割分担がなされ、相乗効果が得られている。「にかほっと」の市民の利用も想定した食事処や農産物直売所などのラインナップ、キッズルームや多目的室の整備などが、日常的な賑わいを創出している。

自動車利用者、特に山形県から北上して来る利用者にとって、「にかほっと」はメインの情報拠点として位置づけられる。今後、由利本荘・にかほエリアの情報提供の際には、単なる観光施設やイベントの紹介のみならず、観光客の楽しく快適な滞在に資するよう、“地域での滞在中の過ごし方や、地域ならではの様々な生活情報”を含めて提供できるようになると理想的である。

8 全体評価

【由利本荘市】

プロジェクト構成事業については、計画した事業を概ね実施に移すことができ、鳥海山観光案内拠点整備による観光情報提供機能の強化により、鳥海エリア全体への観光客の流れを創出できたと考える。特に花立クリーンハイツは、リニューアル前5箇年の平均利用者数の5倍を超える利用者数となるなど、周遊観光のハブ的機能を発揮していることは、本プロジェクトの成果と捉えることができる。

また、観光客の視点からの一体的な観光エリアの構築という目標に関しては、崩落した観光道路復旧の遅れなどの要因もあり、関連する成果指標の目標には達しなかったが、プロジェクト2年目から本事業により実施した周遊ツアーについては、本事業終了後市の単独事業として引き続き実施しており、鳥海山北麓のツアーに加え、山形県庄内地方との県際間広域観光連携を促進するツアー造成などに繋がっている。

【にかほ市】

プロジェクト構成事業については、目標とした道の駅象潟エリアの入込客数70万人を大きく上回る約119万人を達成し、予定以上の賑わいの創出と地域活性化が実現できたと考える。

また、にかほ市観光拠点センターの開所に伴い、同センターに市観光協会と市観光

課が入居し、窓口案内、デジタルサイネージ、ホームページ、フェイスブック等により県内および庄内地域の観光情報の提供と発信を行ったほか、各種のイベントも連携して実施した。加えて、同センターを市コミュニティバス、秋田および庄内空港からのバス、観光乗合タクシー、観光登山バスの発着場所として二次交通の拠点とし、市の観光拠点としての機能は整えられたと考える。

にかほ市観光拠点センター開所２年目となった本年は、二次交通の認知度不足解消に向け、空港ホームページ交通案内リンク、グーグルマップやアキタノNAV I 等に掲載し、PRを図っている。

今後も、情報提供機能および二次アクセス拠点機能を強化し、鳥海エリアの観光周遊ルートを作成・PRするなどの観光振興を図り、観光客の増加による交流人口の拡大で活気あふれる地域となるよう、取り組みを進めていく。

【両市連携】

今後は、本プロジェクトの成果を基礎として、鳥海エリアをこれまで以上に一体的な観光エリアとして観光客に認知され、“鳥海エリアで楽しんだ”という充足感を体験できるエリアとなるよう、取り組みを進めていく。

9 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

(1) “眺めて、住んで、旅して良し”、上質な日常を愉しむ

鳥海山の美しい風景の保全を引き続き進めるとともに、この地に根ざした文化や伝統を観光メニューとしてツアーに盛り込むなど活用を促進していく。

由利本荘市、にかほ市が連携した二次アクセスを絡めた観光周遊ルートの造成を図る。

(2) 「ゆりてつツアー」の認知度向上

由利高原鉄道の自社企画による「ゆりてつツアー」におけるバス利用が、平成２８年上期の実績（１２台）に対して平成２９年度上期は３倍（３６台）と伸びていることから、今後もＪＲ東日本の重点販売地域指定に合わせたツアー商品の造成や、秋田市内での様々なイベント等を活用し知名度向上を図るとともに、旅行会社や秋田市内の宿泊施設との連携強化に向けて協議していく。

なお、本プロジェクトの成果指標では由利本荘市の委託事業として実施している「シャトルバス、周遊バス」の利用客数を掲げており、目標値に対する達成率が２３％と大きく低迷しているが、「ゆりてつツアー」と一体となったPR強化策により、利用客数の増加に努めていく。

(3) 鳥海山の歴史・文化的な観光素材（神社仏閣等）に着目した情報発信

歴史や文化的資源の観光利用については、今年度、鳥海山大物忌神社式年遷座に併せた「出羽富士鳥海山行脚ご朱印ツアー」を地元旅行業者が造成し、これまで5回に渡り催行されており、新たなツアーメニューとして定着しつつある。

また、東北観光復興対策交付金による看板整備を要望している状況にあり、旅行者を直接、歴史や文化的資源に誘導するための方策について、環鳥海エリアで連携し関係機関で協議していく。

(4) 「桑ノ木台湿原」のターゲットを見据えたプロモーションの実施

桑ノ木台湿原の県内周知の徹底を図るため、県内の主要観光施設等へのパンフレット配架と旅行者へのPRを行うとともに、レンゲツツジの咲く春以外の時期について、魅力を発信できないか検討する。

(5) メインーサブの情報拠点の連携

情報拠点の連携について、観光情報システムの直接的連携はできないものの、両市ともに県観光総合ガイドとの連携により、県内の観光情報を発信できるシステムとなっていることから、今後もより一層の連携を図り、一体となった情報発信を行う。

(6) 「にかほっと」の観光情報拠点としての更なる充実

平成30年3月26日、道の駅象潟「ねむの丘」は開所20周年を迎えることから、道の駅象潟エリアとして、互いの機能を補完しながら連携を強化し、更なる充実を図る。

平成30年度事業として、「にかほっと」を拠点とした「観光マップ」を作成する計画である。観光マップには、気候条件や移動時間を考慮した観光ルート（自家用車、二次交通等）を掲載し、観光客の滞在時間等に合わせて行動できる情報を提供する。

また、市観光協会と連携し、市内の店舗情報を案内するほか、市役所各担当部署と連携し、観光以外の市生活情報（ガイドブック、リーフレット等）も集約し、観光客だけでなく市民も快適に過ごせ、すべての方々にとって「にかほっと」が目的の施設となるよう、更なる充実を図る。

【プロジェクトチーム構成員】

由利本荘市	総合政策課、観光文化振興課、財政課、情報管理課、建設管理課、農業振興課、矢島総合支所
にかほ市	企画課、建設課、農林水産課、商工政策課、観光課、教育委員会
秋田県	観光振興課（幹事課）、地域の元気創造課（事務局）、由利地域振興局